

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

こなんっ子防災キャンプ

湖南省教育委員会

## 【事業のポイント】

- 多文化共生について考えよう  
「多文化共生をテーマに防災について学ぼう」
- 聞いた・見たことはあるけれど・・・  
「いろいろなことを体験！今回は避難所を体験してみよう」
  - ・段ボールで避難所に居住地を作ろう
  - ・非常食を食べてみよう
  - ・段ボールの居住地で夜を過ごそう
- 防災について考えよう



## 企画

### (1) 事業実施の背景

- ①湖南省は、平成2年以降外国人の転入者が増加し、外国人比率が約4%と県下でも外国人比率の高いまちであり、増加してきた外国人住民に対応するために、国際協会をはじめとする関係団体、地域、企業、行政が一体となって多文化共生に向けた活動を行っている。
- ②青少年教育において、通学合宿やキャンプなど宿泊を伴う体験活動や地域交流の機会が減少している。  
こうしたことから今回、多文化共生推進プランや防災推進計画に基づき、琵琶湖西岸断層帯地震等の震災を想定した防災キャンプを行うこととした。

### (2) ねらい

- ①子どもたちの自主性や地域における防災に対する意識の向上を図る。
- ②外国人人口の多いことから多文化共生の視点にたった防災教育プログラムを実施することにより多文化共生推進プランにもとづいた防災に対する意識の向上と地域交流を深める。
- ③危機管理・防災課と連携し、防災倉庫等の備品等の利用や計画による行動の実施により計画などの検証の場とする。

## 防災キャンプ実施概要

### 「避難所開設」

ポルトガル語の通訳付きであいさつがありました。



### 「防災講座」

ワークショップ「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起こった？(震災編)

講師:滋賀県国際協会 大森容子氏

言葉が通じない国の避難所で、水や食料が支給されると想定し、トイレの水か飲料水か考えました。その後、避難所のピクトグラムをみんなで考えました。



### 「居住地づくり」

東日本大震災の避難所のことや避難所でのルールについて説明を受けた後、みんなで段ボールで居住地を作りました。



### 「非常食を食べよう カレーライス(アルファ米とカレー)」

避難した日は、調理は困難なことから非常食を食べ、作り方などを学びました。



### 「防災体験訓練」

講師:湖南中央消防署

消火訓練(消火器、消火栓)や煙マシンを体験して学びました。



## 成果と課題

### (1) 事業成果

- ・研修や消防訓練の実技などでは積極的に参加し質問する子どもが多く、子どもたちの自主性の向上が感じ取れた。
- ・お互いが助け合うなど思いやりの気持ちが感じ取れた。
- ・今回の事業で、今後防災キャンプの基本となるプログラムが構築できた。
- ・はじめて体験したことが多くよかったという意見が多かった。
- ・自分の子どもが積極的に、ダンボールハウスづくりや物品の受け取りに行くのを見て感心している保護者がいた。
- ・メニューの中で今後の地域の活動で役立つ・使えるメニューがあるといっておられた保護者や役員の人がいた。

### (2) 事業運営上の課題・留意点

- ・災害の際の大変さをいかに伝えるか。アンケートの感想で楽しかったという意見が多かったが、本来、災害時の大変さが伝わっていたか。
- ・地域の参画。今回は、特定の団体と保護者を対象に、市全体の事業として実施したが、参加者が多く、限られた活動プログラムとなってしまった。もっと早い段階からいろいろな人に参画をいただき、地域で取り組めるようにする必要がある。

### (3) その他

- ・子どもたちに体験の機会を提供し、自由に自分たちでいろいろなことを考え元気に活動する姿は、今われわれ大人のもとめる子どもの姿である。こうした事業をさらに進めたい。
- ・今回の防災キャンプをモデルに、地域の活動として学区や施設単位で地域の人々といろいろなアイデアを出し一緒になって活動できる事業にしていきたい。
- ・防災キャンプ事業の前に台風18号で湖南省ではいろいろな被害に遭い、改めてメニューを見直した。これまで大きな災害がなかっただけに自分たちが災害をいかに甘く考えていたか改める機会となった。

## 団体プロフィール

湖南省教育委員会事務局  
教育部 生涯学習課

〒520-3195  
滋賀県湖南省石部中央一丁目1番1号  
湖南省役所西庁舎

TEL 0748-77-6250  
FAX 0748-77-6253  
e-mail syougaku@city.shiga-konan.lg.jp



# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

親子体験学習「防災キャンプ」

高島市教育委員会事務局 社会教育課

## 【事業のポイント】

- 災害に対して日頃からの心構えや、災害時の適切な行動を学ぼう
- 親子の絆を深めよう
- 地域住民との関わりを通して、自助・共助の意識を高め、それぞれの役割について考えよう



自衛隊入浴車体験(集合写真)

## 企画

### (1) 事業実施の背景

高島市には琵琶湖西岸断層帯と花折断層の2つの活断層帯が存在することから、直下型地震の発生時等、いざという時への備えと心構えが必要である。

また、原子力発電所から20～50km圏内に位置していることから、原子力災害の発生時にも、より適切な避難行動がとれるよう知識や理解を深めておく必要性がある。

### (2) ねらい

①子どもが、災害時の避難所となる施設で、宿泊や野外炊飯等、非常時を想定した生活を体験し、防災組織や避難所生活の知恵と工夫を学ぶ。

②親子での参加、地域住民の参画を得て実施することにより、親子の絆や、災害時に助け合うことのできる地域の絆を再確認し、自助・共助の意識を高めるとともに、それぞれの役割について考える機会とする。

## 防災キャンプ実施概要

「初期対応を学ぼう」 講師：高島市消防本部

応急手当や救護の仕方・初期消火の仕方を学びました。

[椋川山の子学園 炊事棟・ECC学園 運動場]



初期消火訓練



応急手当

「避難所でのテント設営」

講師：社会教育課

〔ECC学園 運動場〕



「避難所生活の知恵と工夫」

講師：たかしま災害支援ボランティアネットワークなまず

補助：高島市PTA連絡協議会

(大人の部) ・ブルーシートでプライバシーを守る仮設テントづくりや

新聞紙で簡易トイレづくりをしました。

〔ECC学園 体育館〕

(子どもの部) ・新聞紙で寝袋・マスク・スリッパづくりをしました。

〔ECC学園 校舎廊下〕



仮設テントの設営と簡易トイレづくり



寝袋づくり



簡易マスク&スリッパづくり

「地震に備えて」&ドラム缶風呂

〔椋川山の子学園

炊事棟・ECC学園〕

(大人) 地震に備えての講話とDVD鑑賞をしました。

講師：高島市総合防災局

(子ども) ドラム缶風呂に入ってみました。



ドラム缶風呂

災害時の入浴体験 [ECC学園 運動場]  
災害時の入浴支援を体験するとともに、陸上自衛隊の災害派遣活動を学びました。



足湯体験

災害時の炊き出し訓練 [棕川山の子学園炊事棟・ECC学園校舎横 本部テント前]  
火起こし機で火をおこし、薪に火をつけました。  
また、陸上自衛隊の炊事車を見学し、災害支援活動を学びました。



火起こし体験



薪を使ってカレーづくり



陸上自衛隊 炊事車の見学

## 成果と課題

### (1) 事業成果

・避難所生活の体験などのプログラムについて、参加者の感想では、「普段、親子でできない活動ができた。参加して良かった」という声が多く、体験を通して親子の交流にもつながった。

・また、今後、災害が発生した場合、「学んだことを活かして、みんなを助けたい」という意見もあり、災害時における助け合いの意識も伝えられたのではないかとと思われる。

・地域から参加していただいた高齢者からは、「最近の子どもはこんなことも知らないのか」という意見もあり、交流を通して今の子ども達の様子を知っていただくことができた。また、PTAの保護者の方には、自分の子どもと同世代の子どもにふれる機会を提供できた。

### (2) 事業運営上の課題・留意点

#### 【企画運営委員会の意見】

・プログラムについて、災害の原因等を知ることができる事前学習会を開催してはどうかということやプログラムにストーリー性をもたせるという意見があった。

・また、事前学習会を開催することにより、参加者同士の交流にもつながり、当日のプログラムにも反映することができるという意見があった。

・食事も含めた体験内容について、身近なもの、あるものだけを使って食事や箸や薪などのものづくりをしてはどうかという意見もあった。

・災害時に中学生は戦力になることから、ボランティアとして企画段階から関わっていただくなど育成してはどうかという意見があった。

### (3) その他

特になし

## 団体プロフィール

高島市教育委員会 (社会教育課)

〒520-1292

滋賀県高島市安曇川町田中455番地

TEL:0740-32-4457・FAX:0740-32-1135

E-Mail:syakyo@city.takashima.shiga.jp



近江聖人 中江藤樹

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

平成25年度愛荘町防災キャンプ

愛荘町教育委員会

## 【事業のポイント】

- ライフラインが絶たれた中での生活体験を学ぼう
- 消防体験をしてみよう
- 町中の危険箇所の発見、避難路の確認、危険箇所のマップ作成をしてみよう



## 企画

### (1)事業実施の背景

県内及び近隣府県には断層帯が多くあり、阪神淡路大震災級や東南海地震等が発生する可能性が大である。また、愛荘町の一部地域では、昭和45年までたびたび水害に遭遇してきた経緯があることと、近年の時間多雨現象等による洪水の発生も懸念されていることから、有事の際の対処方法や非難時の生活方法を確認するために行うこととした。

### (2)ねらい

①地震や水害により電気や水道などのライフラインが絶たれた状況を想定し、関係機関の協力のもと、子どもやその保護者が、町指定避難所への避難方法・避難ルートの確認、避難所生活の体験など、自然災害から命を守るための判断力、行動力の育成や体験活動を通して得られる自主性、社会性、地域愛を育てること。

## 防災キャンプ実施概要

### 活動①「避難所での居場所づくり」

家族全員で過ごすにはどうすればいいか考えました



### 活動②「地域の危険を見つけよう」

歩いて地域のことを学習しました



### 活動③「防災ゲーム～クロスロード～」

いろいろな防災のゲームがあることを知りました



「給水車からの受水体験」  
水がないことの不便さを  
学びました



「消防センター見学」  
いろいろな場所を  
案内してもらいました



## 成果と課題

### (1) 事業成果

成果: 災害が起きたときに直面する問題について(避難所での生活や住んでいる地域の危険箇所など)考えたり、消防署の仕事を学んだことから、災害が起きたときの大変さや普段の生活の有難さを感じ取った。  
子どもたちの感想には「普段考えないことを今回初めて考えた。このキャンプで学んだことを家族に話したいです。」等がありました。

### (2) 事業運営上の課題・留意点

課題: 防災キャンプは子どもたちにとって“楽しそうだから”で参加したキャンプになってしまった。  
子どもたちの防災に対する参加意識を高めることが重要。  
参加者は子ども30名、大人10名を募集しましたが、実際には子ども18名(当日3名欠席)、大人1名の応募となった。できれば親子で参加していただけるようにしたい。

### (3) その他

来年度も実施予定

## 団体プロフィール

愛荘町教育委員会事務局 生涯学習課・愛知川公民館  
連絡先/生涯学習課 0749-37-8055  
愛知川公民館 0749-42-5141

